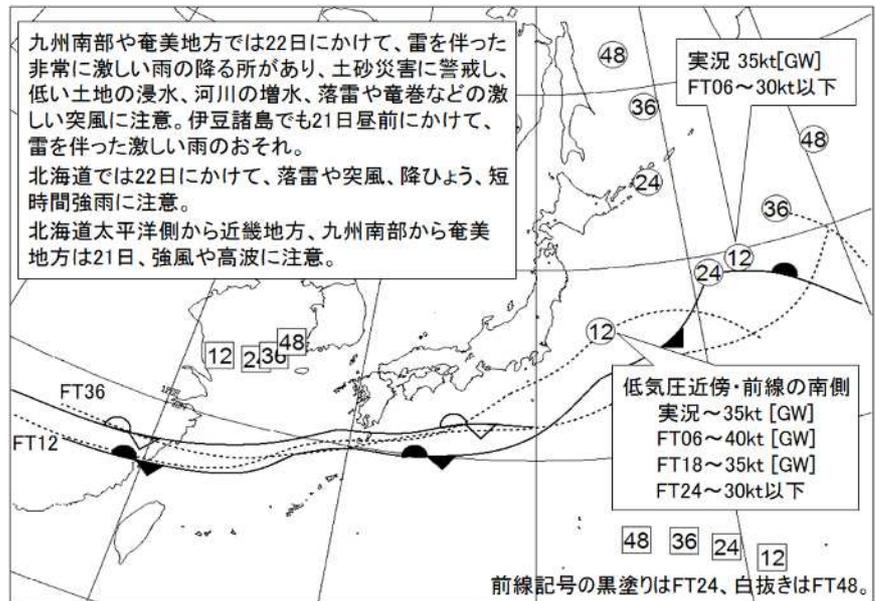


1. 実況上の着目点

① 梅雨前線が東シナ海から日本の東へのびていて、前線上の紀伊水道には低気圧があって東北東進。前線や低気圧の南側には、下層暖湿気(850hPa相当温位345K以上)が流入し、関東地方や種子島・屋久島付近では40mm前後の降水を解析。東シナ海や屋久島付近では発雷を検知。20日21時の高層観測では、850hPaの相当温位は鹿児島で350K、潮岬348K。西日本や東日本では24時間降水量が6月の極値を更新した地点が複数ある。



主要じょう乱解説図

② 中国東北区の500hPa5580m付近には寒冷渦(500hPa-18°C以下)があって東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項②の寒冷渦の東進により、21日の日本付近の500hPaは西南西の流れが続く。1項①の低気圧は21日朝には関東の東海上へ進む。関東地方の強い降水域は21日朝までには海上へ抜ける見込み。西日本や東日本で降水量が多くなった所は21日午前中、土砂災害や河川の増水に注意。
- ② 1項①の前線は南下するが、九州南部や奄美地方には22日にかけて停滞する。前線に向かって下層暖湿気(850hPa相当温位345K以上)が流入するため、伊豆諸島では21日昼前まで、九州南部や奄美地方では22日にかけて、局地的に雷を伴った激しいまたは非常に激しい雨が降る所がある。落雷や竜巻などの激しい突風に注意。九州南部や奄美地方では22日にかけて、大雨となる見込み。土砂災害に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水に注意。九州南部や奄美地方では、23日以降も前線が停滞し活動が活発な状態が続くため、総雨量が多くなるおそれがあることに留意。
- ③ 北海道太平洋側から近畿地方、九州南部や奄美地方では、21日は気圧の傾きが急となるため、風が強く、しける所がある。強風や高波に注意。また、22日は北日本で強風となる所があるので注意。
- ④ 1項②の寒冷渦は、21日午後から22日にかけて北海道を通過。北海道地方を中心に、22日にかけて大気の状態が不安定となる。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場は最新のGSMを基本とし、量子報や降水分布はMSMを参考とする。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

- ① 大雨ポテンシャル(06時からの24時間):九州南部250、奄美180mm。2項③の短時間強雨に留意。
- ② 波浪(明日まで):関東・伊豆諸島5、東海4、北海道・東北・近畿・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表予定なし。